

円卓会議

国連国際防災戦略における斜面災害に関する地球システム 危険度解析と持続可能な災害管理についての研究と学習の強化 - ダイナミックかつ地球規模のネットワークをもつ 国際斜面災害研究計画の構築を目指して -

日時：2006年1月18 20日

場所：国連大学5階 エリザベス・ローズホール東京都渋谷区神宮前5丁目53-70



主催

国際斜面災害研究機構 (ICL), 国連教育科学文化機関 (ユネスコ), 世界気象機関 (WMO)
国連食糧農業機関 (FAO), 国連国際防災戦略事務局 (UN/ISDR), 国連環境計画 (UNEP)
国連大学 (UNU), 京都大学 (KU)

後援

内閣府, 外務省, 文部科学省, 農林水産省, 国土交通省, イタリア外務省, イタリア市民
防衛部 (内閣府), スロバキア環境省, チェコ環境省, 韓国非常事態管理庁, スイス大使館,
日本学術会議, 国際地質科学連合, 日本森林木材環境アカデミー, (社)日本地すべり学会

Bulletin-3 (Draft)

円卓会議

国連国際防災戦略における斜面災害に関する地球システム危険度解析と 持続可能な災害管理についての研究と学習の強化

- ダイナミックかつ地球規模のネットワークをもつ
国際斜面災害研究計画の構築を目指して -

日時：2006年1月18日 20日

場所：国連大学5階 エリザベス・ローズホール東京都渋谷区神宮前5丁目53-70

主催機関

国際斜面災害研究機構 (ICL)
国連教育科学文化機関 (ユネスコ)
世界気象機関 (WMO)
国連食糧農業機関 (FAO)
国連国際防災戦略事務局 (UN/ISDR)
国連環境計画 (UNEP)
国連大学 (UNU)
京都大学 (KU)

後援機関

内閣府，外務省，文部科学省，農林水産省，国土交通省，イタリア外務省，イタリア市民防衛部（内閣府），スロバキア環境省，チェコ環境省、韓国非常事態管理庁，スイス大使館，日本学術会議，国際地質科学連合，日本森林木材環境アカデミー，(社)日本地すべり学会

組織委員会

名誉議長

Salvano BRICENO (UN/ISDR 事務局長)
Hosny EL-LAKANY (FAO 副事務局長)
Walter ERDELEN (ユネスコ副事務局長)
Michel JARRAUD (WMO 事務局長)
尾池和夫 (京都大学総長)

共同議長

Hans van GINKEL (国連大学・学長)
河田恵昭 (京都大学防災研究所・所長)
Badaoui ROUHBAN (ユネスコ自然科学局・防災課長)
佐々恭二 (ICL 会長，京都大学防災研究所斜面・災害研究センター・センター長)

共同幹事

Wolfgang EDER (前ユネスコ地球科学部・部長，ユネスコ・コンサルタント，ICL テクニカルアドバイザー、京都大学防災研究所・非常勤講師)
福岡 浩 (ICL 財務理事，京都大学防災研究所・助教授)
Srikantha HERATH (国連大学・上級学術計画官)
寶 馨 (ICL 理事長，京都大学防災研究所教授・副所長)

背景と目的

平成17年1月の国連防災世界会議のテーマセッション 3.8：“国際洪水イニシアティブ(IFI)と国際斜面災害研究計画(IPL)”において、**国連国際防災戦略における地球システム危険度解析と持続可能な災害管理についての研究と学習の強化のための協力に関する同意書**が ICL によって提案され、この課題に関する世界規模の7つのステークホルダー（指導的機関） ユネスコ、世界気象機関、国連食糧農業機関、国連防災戦略事務局、国連大学、国際科学会議、世界工学団体連盟 が署名した。

国連防災世界会議の成果の一つである兵庫行動枠組 2005-2015 (HFA) は第4章“実施とフォローアップ”の項目 30 の中で以下のように強調している。“全ての国家は以下を実践するよう努めなければならない...地震や斜面災害のような地質災害の危険度の管理が、災害危険度軽減計画の中で十分に考慮されることを保障すること”。兵庫宣言は更に以下のように強調している：“我々は、災害軽減、持続可能な開発、貧困根絶の間の本質的な関係を認識し、またとりわけ政府、地域機関、国際機関、金融機関、および NGO、ボランティア、民間機関、科学者のコミュニティを含む市民社会、全てのステークホルダーがこの問題に関与することの重要性を認識する。”

兵庫行動枠組 2005-2015 の実施への重要な貢献として ICL は国際円卓会議を提案し、上記合意書の世界的枠組みのもとで、国連国際防災戦略における斜面災害危険度解析と持続可能な災害管理についての研究と学習の強化のための地球規模の協力を推進するための初のモデルを構築する。

この円卓会議の目的とするところは、同意書に署名した7機関と ICL 及び政府、大学、研究所、NGO や他の団体を含む関係各機関と共に明確に定義された諸活動及び斜面災害軽減に関連した諸活動及び実施に必要な実行枠組の計画を立てることである。この円卓会議の成果は、兵庫行動枠組に含まれている5つの優先行動、とりわけ以下の各項目に関連するものである。

- * 災害危険度の特定、予測、監視と早期警戒の強化
- * 安全とレジリエンス（災害対応）の文化を創造するための全レベルにおける知識、技術革新、教育の利用
- * 潜在的危険要因の軽減

同意書

「国連防災世界会議(WCDR)」, 日本国神戸市, 2005年1月18~22日

この“同意書”は, ‘総合的地球システム危険度解析と持続できる災害管理’の研究と学習に必要な包括的なアプローチのための基盤を構築することを目的とする。

(背景)

- 災害リスク軽減について言及せずに, 地球規模の持続できる開発について議論することは不十分であることを理解し;
- 自然災害に関連する警報システムを含む災害リスク防止政策を改善あるいは確立しなければならないことを認識し;
- 災害は貧民と発展途上国に特に大きな影響を与えることに注目し;
- 長年にわたり, 防災に関する科学, 技術, 通信分野における基盤構築に対する投資が少なかった状況を今こそ変え, 自然災害をより良く理解し, 特に発展途上国における自然災害に対する脆弱性を減少させるあらゆる活動を発展させるべきであることを強調し;
- 災害軽減に関する企画調整と情報交換が不足している状況が深刻であることを認識し,

(提案)

国際連合機関の代表, および科学団体(国際科学会議)と工学団体(世界工学団体連盟)は,

国連国際防災戦略の枠組みにおいて, ‘地球システム危険度解析と持続できる災害管理’に関する研究と学習を強化することを通して更なる地球規模の災害軽減およびリスク防止を推進することを提案する。

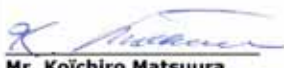
より具体的には, 国際防災戦略の枠組み, 国連防災世界会議の行動計画, 他の関連するネットワークおよび各種研究機関や国際的専門家と連携し,

地すべりやその他の自然災害など個別の災害現象に焦点を絞った災害危険度軽減を目標とする‘覚え書’を関係国際機関間で交わすことを推薦する。

(要請)

地球規模, 地域あるいは国レベルの有力な団体に対して, 本同意書に従い締結される個別の覚え書に参画し, またその覚え書の対象とする課題と目的に合致した具体的なプロジェクトに参加することを通して, 本イニシアティブを支援するよう要請する。

署名:



Mr. Koichiro Matsuura
Director-General
国連教育科学文化機関
事務局長

4 MAR 2005

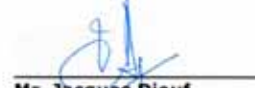
Date



Mr. Michel Jarraud
Secretary-General
世界気象機関
事務局長

22. 3. 2005

Date



Mr. Jacques Diouf
Director-General
国連食糧農業機関
事務局長

21. VI. 2005

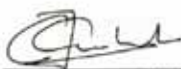
Date



Mr. Sálvamo Briceño
Director
国連防災戦略事務局
事務局長

19. 01. 05

Date



Mr. Hans van Ginkel
Rector
国際連合大学
学長

19. 01. 05

Date



Ms. Jane Lubchenco
President
国際科学会議
会長

21. 04. 05

Date



Ms. Françoise Come
Executive Director
世界工学団体連盟
理事長

21/ 2/ 2005

Date

平成 17 年 1 月 19 日に神戸で開催された国連防災世界会議「テーマセッション 3.8: 国際洪水イニシアティブ (IFI) と国際斜面災害研究計画 (IPL)」において, 国際斜面災害研究機関 (ICL) が「地球システム危険度解析と持続できる災害管理の研究と学習の強化に関する協力」を推進するための同意書 (Letter of Intent) を提案した。上記の同意書は各機関が公式に承認・署名した同意書原本に基づき作成されたものである。なお各署名の原本は国際斜面災害研究機関 (ICL) の事務局である京都大学防災研究所斜面災害研究センターに保管されている。



国際斜面災害研究機構

事務局: 京都大学防災研究所斜面災害研究センター 〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄

Web: <http://ICL.dpri.kyoto-u.ac.jp>, E-mail: jimu@landslide.dpri.kyoto-u.ac.jp, Tel: +81-774-38-4110, Fax: +81-774-32-5597

円卓会議プログラム
国連国際防災戦略における斜面災害に関する地球システム危険度解析と
持続可能な災害管理についての研究と学習の強化
- ダイナミックかつ地球規模のネットワークをもつ
国際斜面災害研究計画の構築を目指して -

1月18日(水)

9:30-10:00

円卓会議開会式

司会：佐々恭二

開会挨拶

井田久雄 (文部科学省大臣官房審議官)

Hans van GINKEL (国際連合大学・学長)

Walter ERDELEN (ユネスコ・副事務局長) 代理 Badaoui ROUHBAN (ユネスコ自然科学局・防災課長)

Salvano BRICENO (国連国際防災戦略事務局・事務局長)

Michel JARRAUD (世界気象機関・事務局長) 代理 Avinash TYAGI (世界気象機関・水文及び水資源局長)

Hosny EL-LAKANY (国連食糧農業機構・副事務局長)代理 Thomas HOFER (国連食糧農業機構・林業担当官)

Hari SRINIVAS (国連環境計画・都市環境管理担当官)

尾池和夫 (京都大学・総長)代理河田恵昭 (京都大学・防災研究所・所長)

10:00-12:00

ハイレベルセッション: 目的及び成果の枠組

出席者：主催機関（国際斜面災害研究機構，ユネスコ，世界気象機関，国連食糧機構，国連国際防災戦略事務局、国連環境計画，国連大学、京都大学）からの代表、及び後援機関（内閣府、日本政府各省庁，イタリア内閣府市民防衛部、ロシア国環境省、チェコ国環境省、韓国非常事態管理庁ほか）からの代表

議題案

- 1) ICL、IPL および同意書の概要
佐々恭二 (国際斜面災害研究機構会長)
- 2) 各地すべり関連機関の活動紹介
- 3) 国際斜面災害研究計画 (IPL) の推進体制と「2006年東京行動計画」(案)の紹介
佐々恭二、RTD 組織委員会
- 4) 「2006年東京行動計画」(案) に対する討論

12:30-14:30 ランチミーティング

ハイレベルセッションのパネリストによるワーキング昼食会：

国際斜面災害研究計画 (IPL) の推進体制と「2006年東京行動計画」の主要行動項目の決定

14:30 -17:00

円卓会議全体セッション1: IPL 推進体制に基づく活動目標

議題案

- 1) IPL 推進体制の紹介
- 2) 国際斜面災害研究計画の地球規模斜面災害軽減協力分野およびその主要活動についての検討および討論
- 3) 二日目に開催される4分科会のまとめ役(複数)の指名

17:15-17:35

集合写真撮影

想定されるダイナミックかつ地球規模のネットワークをもつ国際斜面災害研究計画(IPL)の発展を記念する全ての参加者による集合写真。

18:30-21:00

レセプション

歓迎挨拶

武田文男(内閣府大臣官房審議官)

Hans van GINKEL(国際連合大学・学長)

参加者代表挨拶

Laszlo MIKLOS(スロバキア国・環境大臣)

1月19日(木)

9:30-12:00

円卓会議分科会: 実施戦略

国連大学5階の四つの会場において、四つの地球規模協力分野に対して四つの分科会を開催する。

- 1) 作業部会の参加者は、**例えば**以下のような協力分野に分かれて議論する。
 1. 手法(Methodology)
 - A. 監視(Monitoring)と早期警戒(Early Warning)
降雨起因型地すべりと長期クリーブ型地すべりとその早期警戒、衛星(光学写真、合成開口レーダー)からの地球規模地すべり監視
 - B. リスク特定(Risk Identification)とハザードマップ(Hazard map)
前兆段階にある大規模地すべりの特定と都市開発地域における潜在的な地すべり危険性の判定、広域(Global landslide disaster hot spot)、地域(Regional)及び特定地区の街区単位(Street level)のハザードマップ
 2. 重点対象(target landslides)
 - A. 地震・豪雨による巨大地すべり災害(Catastrophic landslides induced by earthquakes and heavy rains)
地震時の高速地すべり、火山地帯の流動性崩壊と土石流、降雨後の地震による地震降雨複合斜面災害、津波を引き起こす巨大臨海地すべり・海底地すべり
 - B. 文化遺産地区を脅かす地すべり(Landslides threatening cultural heritage sites)
マチュピチュ遺跡、アフガンのパーミヤン遺跡、中国華清池、エチオピア岩刻教会、エジプト王家の谷
 3. 教育(Capacity building)
 - A. 教育・人材育成(Education and Capacity building)
地すべり現地での Summer School, 教育拠点での研修、留学生教育の推進
 - B. 地すべりデータベース(Hyper database)
(画像、動画、文字)データベースと情報発信(Information dissemination)
 4. 備えと復興(Prevention Measures)
 - A. 斜面災害への備え: 山地・都市・臨海開発に伴う地すべりとその災害軽減のための地域計画、防災政策(Policy and Planning)、および防災対策
 - B. 復興(Recovery): 二次災害を防ぎ、より安全な地域構築に役立つ復興計画
- 2) 活動、事業、予測される成果についての暫定的日程表の作成

12:00-14:30 ランチミーティング

各セッションのまとめ役は、午後の全体セッション 2 で報告するために各セッションでの討論の結果をまとめ、そのパワーポイントを作成する。

14:30 -17:00

円卓会議全体セッション 2: 行動計画

議題案

- 1) 4つの作業部会の概要報告
- 2) 各作業部会提案企画についての検討
- 3) 最終成果の枠組み案に沿った行動計画の検討

17:00- 最終文書「2006 東京行動計画」のための合同作業部会

「2006 東京行動計画 - 地すべりと関連地球システム災害の危険度軽減のための地球規模での研究と学習の強化」の作成

1月20日(金)

9:30-12:00

全体セッション 3 : 「2006 東京行動計画」のための総括セッション

議題案

- 1) 「2006 東京行動計画」の紹介
作業部会代表
- 2) 「2006 東京行動計画」の検討およびこれを実施するためのメカニズムの特定

13:30-15:30 公表用「2006 東京行動計画」文書作成作業部会

15:30-16:30

円卓会議総括セッション

議題案

- 1) 外国政府代表の支援スピーチ(イタリア、韓国、スロバキア、アメリカ)
- 2) 「2006 東京行動計画 - 地すべりと関連地球システム災害の危険度軽減のための地球規模での研究と学習の強化」の採択
- 3) 次回会議の案内(案:日付:2006年11月上-中旬、会場:ユネスコ本部(パリ))
- 4) 総括:藤井 隆(文部科学省研究開発局地震・防災研究課防災科学技術推進室長)
議長団から総括及び閉会の辞

16:30-17:00

記者会見 (会場:閉会式に引き続き、国連大学5階エリザベス・ローズホールにて開催)
司会:西川智(内閣府参事官)円卓会議最終成果文書及び一般向けのコミュニケの記者発表

“2006 東京行動計画”

- 地すべりと関連地球システム災害の危険度軽減のための地球規模での研究と学習の強化

17:30-18:30 **国連大学招待フェアウェルtoast** (会場:国連大学5階ラウンジ)

19:00 - 21:00 **ポストコンフォレンスタ食会** (会場:国連大学外のレストラン)

円卓会議の日程

	1月17日(火)	1月18日(水)	1月19日(木)	1月20日(金)
午前	9:30-12:00 5F Committee Room 2 国際斜面災害研究機構 企画委員会	9:30-12:00 5F エリザベスホール 円卓会議開会式 1) 開会の辞(井田、Ginkel, Erdelen, Briceno, Jarraud El-Lalany, Srinivas, 尾池) 2) ハイレベル円卓会議 (共同議長: Ginkel, 河田, Rouhban, 佐々)	9:30-12:00 5F エリザベスホール, Committee Room 2, 3, Staff room 分科会 (実施戦略) 四つの地球規模斜面災害軽減協力分 野に対して四つの作業部会による討 論	9:30-12:00 5F エリザベスホール 全体セッション3 最終成果文書「2006 東京行動計画」 のための総括セッション
昼食	13:00-16:00 5F Committee Room 2 円卓会議準備会議 5F Committee Room 2 参加者会議登録	12:00-14:30 12F 会議室 ランチミーティング IPL 推進体制及び東京行動計画骨子 の作成	12:00-14:30 5F ラウンジ ランチミーティング 四分科会のまとめ役による討論結果 のまとめとパワーポイントの作成	13:30-15:30 5F エリザベスホール 公表用「2006 東京行動計画」作成作 業部会
午後		14:30-17:00 5F エリザベスホール 全体セッション1 IPL 推進体制に基づく活動目標 17:15-17:35 5F エリザベスホール 集合写真撮影	14:30-17:00 5F エリザベスホール 全体セッション2 (行動計画) 作業部会の報告とそれに基づく行動 計画の検討	15:30-16:30 5F エリザベスホール 総括セッション 外国政府代表支援スピーチ 「2006 東京行動計画」の採択 総括 藤井隆、議長団 16:30-17:00 5F エリザベスホール 記者会見 司会: 西川智内閣府参事官
夕刻		18:30-21:00 2F レセプションルーム レセプション 歓迎の辞: 内閣府武田文男審議官、 Hans van Ginkel 国連大学総長、 謝辞: スロバキア環境大臣 L. Mikos	17:00- 12F 会議室 「2006 東京行動計画」作成のための 作業部会	17:30-18:30 5F ラウンジ 国連大学フェアウエルトースト 19:00-21:00 ポストコンフォレンス 夕食会(国連大学外のレストラン)

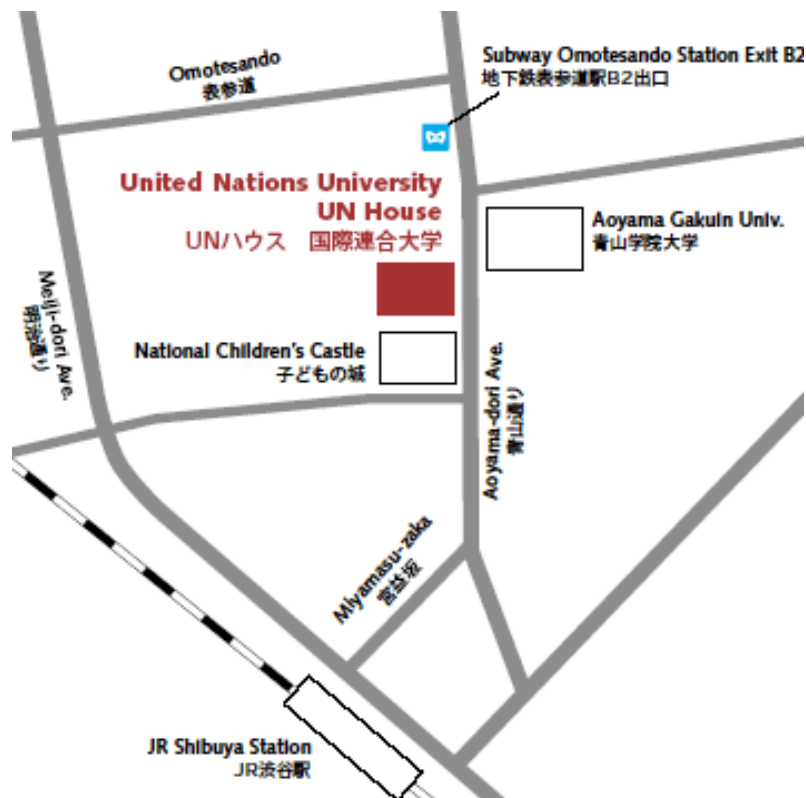
国連大学へのアクセス

国連大学本部はJR渋谷駅から徒歩8分もしくは地下鉄表参道駅出口B2(銀座線、半蔵門線、千代田線乗り入れ)から徒歩5分のところにあります。青山通りをはさんだ向かいには青山学院大学、建物の向かって左隣にはこどもの城があります。

所在地 〒150-8925 東京都渋谷区神宮前 5-53-70

電話 (03)3499-2811

ファクス (03)3499-2828



円卓会議事務局:

京都大学防災研究所
斜面災害研究センター
〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄
Tel: +81-774-38-4110
Fax: +81-774-32-5597
E-mail: jimu@landslide.dpri.kyoto-u.ac.jp
Website: <http://icl.dpri.kyoto-u.ac.jp/>

参加予定者名簿 (平成 18 年 1 月 12 日)

ユネスコ

Badaoui ROUHBAN (ユネスコ防災課・課長)

Wolfgang EDER (前ユネスコ科学部・部長, ユネスコ・コンサルタント, ICL テクニカルアドバイザー、
一、京都大学防災研究所・非常勤講師)

国連国際防災戦略事務局

Salvano BRICENO (国連国際防災戦略事務局・事務局長)

Praveen PARDESHI (国連国際防災戦略事務局・上級計画官・国連開発計画より出向)

Yuki MATSUOKA (国連国際防災戦略事務局・事務局長特別補佐官)

世界気象機関

Avinash TYAGI (世界気象機関・水文及び水資源局長)

国連食糧農業機関

Thomas HOFER (国連食糧農業機関・林業担当官)

国連環境計画

Hari SRINIVAS (国連環境計画・都市環境管理担当官)

国連開発計画

Hossein KALALI (国連開発計画・計画アドバイザー)

国際連合大学

Hans van GINKEL (国際連合大学・学長)

Srikantha HERATH (国際連合大学・学術審議官)

Libor JANSKY (国際連合大学・学術審議官)

世界工学団体連盟

See Sew GUE (世界工学団体連盟代表・マレーシア工学研究所)

各国代表

カナダ

Oldrich HUNGR (カナダ・ブリティッシュコロンビア大学・教授)

Baolin WANG (カナダ地質調査所・主任研究官)

Elizabeth THERIAULT (在日本カナダ大使館・書記官)

中国

Zhong LI (在東京中国大使館・科学技術部・参事)

Xuanmin WU (中国地質調査局水文地質環境地質部・副主任)

Qin BAI (中国地質調査局科技外事部外事処・副処長)

Pinggen ZHOU (中国地質調査局・中国地質環境監測院・地質災害調査監測室長)

Wei SHAN (中国・東北林業大学・教授)

チェコ

Vit VILIMEK (チェコ・チャールズ大学・教授)

Karel ZEBRAKOVSKY (在日本チェコ大使館・特命全権大使)

イタリア

Claudio MARGOTTINI (イタリア・エネルギー新技術環境庁・課長)

Nicola CASAGLI (イタリア・フローレンス大学・教授)

Filippo CATANI (イタリア・フローレンス大学・助教授)

韓国

Kisung BANG (韓国非常事態管理庁)

Byung-Gon CHAE (韓国・地質科学・鉱物資源研究所・上席研究員)

Dug-Keun PARK (韓国・国立防災研究所・研究員)

ネパール

Mats ERIKSSON (国際山地統合開発センター・上席研究員)

ペルー

Raul CARRENO (ペルー・Grudec Ayar 社)

ロシア

Alexander STROM (ロシア・地圏力学研究所・教授)

Oleg ZERKAL (ロシア・エネルギーシステム連合会社・総裁)

Irina ANTIPINA (ロシア・エネルギーシステム連合会社)

Tatiana KRUCHININA (ロシア・エネルギーシステム連合会社)

スロバキア

Laszlo MIKLOS (スロバキア共和国環境省・環境大臣)

Peter VRSANSKY (在日本スロバキア共和国大使館・特命全権大使)

Jan VLCKO (スロバキア・コメニウス大学・助教授)

スイス

Felix MOESNER (在日本スイス国大使館・科学担当書記官)

Walter AMMANN (スイス雪・雪崩連邦研究所・所長)

タイ

Aniruth POTICHAN (タイ国土開発局)

アメリカ

Robert L. SCHUSTER (米国地質調査所・囑託)

日本

武田文男 (内閣府大臣官房審議官)

西川 智 (内閣府災害予防担当参事官)

多治比 寛 (内閣府災害予防担当参事官補佐)

井田久雄 (文部科学省大臣官房審議官)

藤井 隆 (文部科学省防災科学技術推進室長)

中川弘之 (文部科学省防災科学技術推進室長補佐)

武内靖貴 (文部科学省防災科学技術推進室)

浅井孝司 (文部科学省国際統括官補佐)

秋山和男 (文部科学省国際統括官付ユネスコ協力官)

南 哲人 (文部科学省国際統括官付ユネスコ係長)

高野修一 (外務省国際社会協力部地球環境課・主席事務官)

坂部真一 (国土交通省総合政策局国際建設室・国際協力官)

常住春夫 (国土交通省国土地理院地理調査部防災地理課・課長、ICL 理事)

小荒井衛 (国土交通省国土地理院地理地殻活動研究センター地理情報解析研究室・室長)

長谷川 学 (国土交通省国土地理院地理調査部防災地理課・専門職、ICL 理事代理)

城土 裕 (林野庁治山課・課長)

古藤信義（林野庁治山課・課長補佐）
坂本忠彦（（独）土木研究所・所長）
片山恒雄（（独）防災科学技術研究所・所長）
井口 隆（（独）防災科学技術研究所・総合防災研究部門・部門長）
竹内美次（（独）森林総合研究所・水土保持研究領域長）
落合博貴（（独）森林総合研究所・室長、ICL 理事代理）
岡田康彦（（独）森林総合研究所・研究員）
北本政行（（財）都市防災研究所・アジア防災センター・センター長）
角崎悦子（（財）都市防災研究所・アジア防災センター・主任研究員）
太田秀樹（（社）地盤工学会・会長）
山岸宏光（（社）日本地すべり学会・会長、ICL 理事）
矢田部龍一（愛媛大学工学部・教授、ICL 理事）
岡村未対（愛媛大学工学部・助教授）
小長井一男（東京大学生産技術研究所・教授、ICL 理事）
東畑郁生（東京大学工学研究科・教授、ICL 理事）
丸井英明（新潟大学積雪地域災害研究センター・教授、ICL 理事）
渡辺直喜（新潟大学積雪地域災害研究センター・講師、ICL 理事代理）
桧垣大助（弘前大学農学生命科学部・教授）
嘉門雅史（京都大学大学院地球環境学堂・学堂長）
ラジブ・シヨウ（京都大学大学院地球環境学堂・助教授）
亀田弘行（京都大学・名誉教授、防災科学技術研究所・客員研究員）
河田恵昭（京都大学防災研究所・教授、所長）
竇 馨（京都大学防災研究所・教授、副所長、ICL 理事長）
千木良雅弘（京都大学防災研究所・教授）
佐々恭二（京都大学防災研究所・斜面災害研究センター長・教授、ICL 会長）
福岡 浩（京都大学防災研究所・斜面災害研究センター・助教授、ICL 財務理事）
汪 発武（京都大学防災研究所・斜面災害研究センター・助手、ICL 会長補佐）
王 功輝（京都大学防災研究所・斜面災害研究センター・助手、ICL ジャーナル“Landslides”編集長補佐）
姜 相赫（京都大学防災研究所・招聘外国人学者）
古谷 元（京都大学防災研究所・斜面災害研究センター・非常勤講師）
南谷太一（京都大学防災研究所・斜面災害研究センター）
尾川七瀬（京都大学防災研究所・斜面災害研究センター）
Kirill M. GERKE（京都大学防災研究所・斜面災害研究センター）
Ekaterina T. GEORGIEVA（京都大学防災研究所・斜面災害研究センター）
上田美恵（京都大学防災研究所・斜面災害研究センター）



Metal box

Memory box
battery

GPS receiver on top

Pen-recording type automatic extensometer

Solar power panel (left) and 4m-long pole (right)

Extensometer and GPS Receiver Installation in Machu Picchu